



坂野 真知子

SAKANO MACHIKO

1952年 柏崎市出身

子どもから大人まで、老若男女を問わず多くの人たちが訪れる「わたじん楽器ララフィ」は2009年のオープンから今年で11年目を迎える。

ロビー内にあるショップには、ピアノやエレクトーンを始め、ギターや管楽器、小物、楽器、付属品やメンテナンス用品が揃っている。また、ヤマハ音楽・英語教室として地域に長く親しまれ、柏崎の人たちにとって誰もが知っているおなじみの場所でもある。その音楽教室を訪ねる機会に恵まれた。

取材をお願いしたのは、坂野真知子さん。坂野さんは、こちらでおよそ週1回、ヴァイオリンの個人レッスンに通って10年になる。

坂野さんは小学校教諭として柏崎市や近隣市町村の小学校、特別支援学校などに長年勤務してきた。母の介護のために仕事を早期退職したが、その母から何か趣味を持ったほうがいと応援され、思い切ってヴァイオリンを始めることにしたのだと話す。

小さい頃から音楽が好きで、小・中学校とピアノを習っていたという坂野さん。でも、家にピアノはなく、いつもオルガンで練習していた。上達するにつれ、難し

い曲が弾けるようになると鍵盤の数が足りなくて困った、と当時を懐かしむ。そんな音楽好きな少女にとってヴァイオリンは憧れの楽器だったという。

坂野さんは5歳の孫を誘って一緒にヴァイオリンを習い始めた。自分の練習だけでなく、孫のレッスンの送り迎えもしながら、一緒に練習したり難しいところを教え合ったり、「今では中学3年になった孫のほうがずっと上手なんです」と目を細める。現在は3人の孫それぞれのレッスンのため、週に何回もララフィに通う日々。母も亡くなり、孫と趣味を共有できたことは坂野さんの生きがいにもなっている。母の葬儀の際、孫がヴァイオリンの演奏で葬送してくれたことは今も心に残っているという。

ヴァイオリンのおかげで今まで知らなかった世界が開けた、と話す坂野さん。数年前、知人に紹介されてヴァイオリンの製作体験教室に孫と一緒に参加した。今、使っているヴァイオリンはプロの手ほどきを受けながら製作した、まさに自分だけの楽器。手にするほどに愛着が増し練習にも熱が入る。孫と一緒に苦労して作ったという思い出も加わった大切な宝物になっている。



レッスンが楽しい、と話す坂野さん(左)と涌井美香子先生。

お問い合わせ

わたじん楽器 ララフィ

柏崎市岩上2-18

TEL 0120-415-117